

和文誌の査読の流れ

と ポイント (要素分野)

山本 晃生

日本ロボット学会誌論文査読小委員会



和文誌の4分野

要素

システム設計・構築

人材育成・社会

実証実験

特別な査読基準を必要とする分野

要素分野＝

(投稿要領での定義)

センサ, コンピュータ, アクチュエータ, 機構, モデリング, 制御等の基幹要素に関する科学・技術

一般的な論文は「**要素分野**」へ

- 一般的な査読基準
- 他の3分野に当てはまらないものは, 全て「要素」へ
- ロボットに関連する技術なら, **なんでも投稿可能**

査読の流れ

1. 論文執筆・投稿
2. 査読委員1名, 査読者2~3名の割り当て
3. 査読
4. 査読結果通知
5. 回答書と修正原稿作成・提出
6. 再査読
7. 採録・掲載

3名になる事情は様々
・評価が割れたので1名追加
・評価が割れるのを予想して
・なんとなく3名

判定結果通知のメール

このたびは、日本ロボット学会誌へ論文をご投稿いただきありがとうございました。

さて、ご投稿論文につきまして、査読者の先生からいくつかの問題についてご意見があり、条件付き採録と判定されました。
つきましては、本メール末に記載の査読者のコメントをご参照のうえ、投稿論文の修正をお願いします。

(中略)

--

日本ロボット学会誌 論文査読委員長
川村 貞夫

【論文査読委員からのコメント】

論文査読委員
著者へのコメント:

査読者らは、……であると指摘しています。
これらの指摘に対する対応をお願いします。

【査読者からのコメント】

査読者: 1
著者へのコメント

・コメント, コメント, コメント

査読者: 2
著者へのコメント

・コメント, コメント, コメント

結果は4通り

- ◆ 採録可
- ◆ 修正後採録可
- ◆ 条件付採録可
- ◆ 採録不可

大半がコレ

基本的には査読意見をまとめたもの
判定理由

査読者からの指摘事項

判定にめげない

査読結果は4通り

- ◆ 採録可 (accept)
- ◆ 修正後採録可 (minor revision)
- ◆ 条件付採録可 (major revision)
- ◆ 採録不可 (reject)

大半がコレ

- 最初から「採録可」となる論文は(ほとんど)無い
- 大半の論文は「条件付採録可」, かつ, 大量の厳しい条件
→ めげずに頑張る
- 「採録不可」となっても必ずしもあきらめない。
「指摘事項が多く時間がかかりそう」というケースが多い
(査読委員コメントに再投稿を促すメッセージが付く)

少しでも良い判定を得るために

- (当たり前だが) **原稿は丁寧に作成する**
- **論文の位置づけ, Contributionを明確にする**
 - 関連研究をたくさん調べる
(日本人学生の論文は得てして参考文献が少ない)
 - 既存の研究で何が足りないのか, それに対して,
自分の研究がどう取り組むのかを議論
 - 当該分野に対する自分の研究のContributionは何か?

原稿は丁寧に

査読者は専門的な立場から論文を評価

- ミスを見つけるのは査読者の仕事ではない

専門家でなくともできる指摘を受けないように！

- 誤字・脱字
- 変数が宣言されていない
- 図番の対応が間違ってる
- レイアウトの乱れ
- 図表の乱れ
- 最終PDFで必ず確認(PDF変換時の文字化け等)

当たり前のはずだが、こうしたミスを指摘する査読コメントは結構多い

原稿は丁寧に（図表の乱れ）

MS-Word原稿にトラブルが多い

- 図表はできるだけベクトルデータで貼り付け
- MS-Office内で完結する場合は問題は少ない

他のソフトから貼り付ける際のトラブル

- 昔ながらのスタンダートは，EPSファイル経由
- 最近，WordへのEPS取り込みが不可能に
 - × コピー&ペースト
（劣化しやすい．ビットマップ化，位置ずれ）
 - △ EMF/SVGで読み込み（EMF/SVG変換時の劣化に注意）
 - EPSフィルタを有効化（ただし，セキュリティに注意）
（要レジストリ編集．Office365では不可）
 - ◎ LaTeXで作成（掲載料も安くてお得）：EPS/PDFで貼る

位置づけ・Contributionを明確に

評価の基準

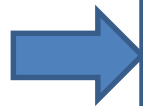
新規性

有用性

提案性

- 有用性, 提案性を主張する場合であっても新規であることは求められる

- どうやって, これらを示すか？



イントロダクションが極めて重要

- イントロダクションがいい加減な論文は評価が低い

位置づけ・Contributionを明確に

- **新規性・有用性・提案性**はイントロで主張
 - イントロの書き方が極めて大事
- **関連論文(含 英文)を数多く調べて論じる**
 - 日本人学生の書く論文は参考文献が少ない傾向
 - 欧米の学生は参考文献が膨大
- **既存研究の不足点**(=自分の研究にとっての課題設定)を明確にしたうえで、それに対する自身の取り組みを述べる

位置づけ・Contributionを明確に

「この研究により当該分野にどのような貢献ができるのか？」

単に「こんなの作りました」は避ける

- 試作機は, いわば **Proof-of-Concept**
- 肝心なのは **Concept**
- その**Concept**の貢献(**Contribution**)は何か？

→ **新規性/有用性/提案性の
明確化につながるはず**

あとは, 実際の内容が, イントロの主張と整合していること

査読コメント(照会事項)の例

～(前提・問題設定など)の妥当性が不明です。説明を追加して下さい。

～のパラメータ・図の意味がよく分かりません。説明を追加して下さい。

～の検証が不十分です。～を検証する実験をして、～の性能を確かめて下さい。

～の定量的評価をして下さい。

などなど、採録のための条件が明記される

採録判定の基本ルール

査読者の**すべての照会事項**に対して、
適切に**回答**して論文を**修正**する

照会事項のうち1つでもクリアしていないと、
落とされても文句は言えない

- どうしてもクリアできない(例えば, 再実験ができないなど)
場合は, 言い訳をしつつも, できる範囲で最大限対応
- 「実質ゼロ回答」はダメ

照会事項以外の内容は採録の可否に無関係

対応に注意を要するコメント

「～でしょうか？」という質問形式のコメント

- 査読者の意図は質問ではない
 - ✓「この部分が良くわからないので修正すべき」の場合が多い
- 単に回答書の中で答えるだけではダメ。原稿にも反映させる

誤解に基づく指摘

- 単に回答の中で誤解を解くだけでは不十分
- 誤解するには理由があるので、その点を解消するよう原稿に修正を施す

再実験，追加実験等の要求

- できるなら，やる
- どうしても再実験できない場合は，言い訳しつつも最大限のことをする。（ゼロ回答はダメ）
- 追加実験の要求に対して「それについてはFuture Workとします」として逃げたのでは理解を得られない
- 「ここまでやりましたので，後はFuture Workとさせていただきます」ならありえる（ただし，査読者の理解が得られるかは状況による）

査読者の方々へのお願い

- 査読へのご協力，大変ありがとうございます。
- 暖かい気持ちで，面白くて良い部分を前向きに評価して頂けると幸いです。
- 採録のための条件は，疑問形ではなく，明示的に条件として書いて下さい。
 - 〔○〕 ～が不明です．～の説明を追加して下さい。
 - 〔×〕 ～はどうでしょうか？
- 採録のための条件を新規に出すのは，原則として初回査読時のみ。
2回目以降は初回の条件が満たされているかどうかのみを判定して下さい。

おわりに

一般の論文は「要素」分野へ

専門家でなくとも指摘できるミスを残さない

立派なIntroductionで，論文の位置づけを明確に

- 関連研究の調査は英文含め，しっかりとやる

査読の結果にめげずに掲載めざしてがんばる

- 「条件付き掲載」で大量の条件がつくのが当たり前
- 指摘事項に，どう対応するかが腕の見せ所

投稿をお待ちしています